ヘ」ト云ハルヽモノデ孔雀島上ニモグレーブネル教授ニヨレバ八百年以上ノ樹齢ヲ持ッテ居ルモノガアルトノ事デアル

予等ハ島内ヲ巡見シナガラグレーブネル教授ノ「アイヘ」ノ話ヤ又芝生ノ上ニ可ナリ多數ニ見出サレタ胎芽ヲ生ズル禾本科ノ一種 Poa bulbosa ナドノ話ヲ聽キ其レカラ又島内ノ一小部ニアル「ハイデ」狀ノ處ニ至リ已ニ花ノ咲イタ Genista pilosa 等ヲ採ッタ此處カルナモ澤山アッタガ時期尚早ク乾枯シテ居ッタ、因ニ此カルナト稱スル植物ハ眞夏頃花盛リデ獨逸人ナドハ其ノ花見ニ遠足ニ出掛ケルガ日本ナドニハ見ラレヌ花見デアル

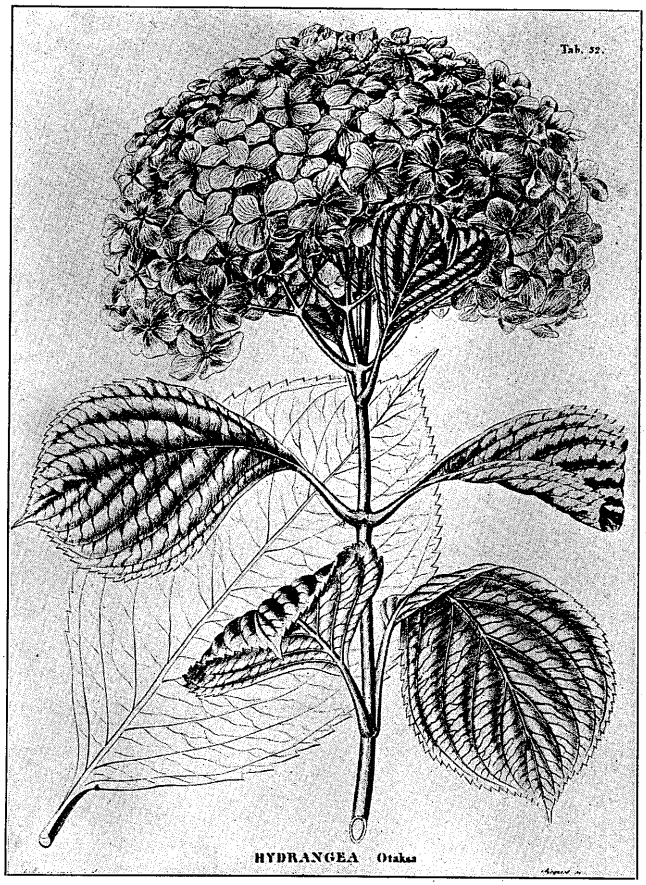
（未完）

○おたくさ Otaksa トハ果シテシーボルド來朝時代ニ於テあぢさゐニ對スル和名ナリシカ

澤田武太郎

P. F. Siebold ト J. G. Zuccarini トノ共著 Flora Japonica 第一卷（1835 我天保六年出版）百〇五頁ヲ繙イテ見ルト Hydrangea Otaksa ノ新學名ト之レニ對スル原記載ガアリ又其百〇六頁ニ至リ Nomen Japon. Otaksa トアル、尙其五十二圖版ニ就テ見ルニ此學名ニ對スル植物ガあぢさゐデアルコト疑ノ餘地ガナイ（次頁ノ寫眞參照）ソコデ Otaksa ハあぢさゐノ方言デアッタロウトノ想像ガ起ッテ來ル

此點ニ關シテ E. H. Wilson ハ疑ヲ以テ Siebold's name "Otaksa" is not used in Japan today and Japanese scholars fail to understand its derivation (Journal of Arnold Arboretum, Vol. IV. No. 1, p. 237 [1923].) ト放言シテ居ルガ、大正十五年再版ノ吳秀三著「シーボルド先生」ノ書ニハ次ノヤウニ之レガ簡單ニ片付ケテアル



あぢさゐ Hydrangea Otaksa. SIEB. ET ZUCC.

(SIEBOLD ET ZUCCARINI, Flora Japonica II ノ)

【牧野云フ】 あぢさゐハ昔ハあづさゐト呼ビ後ニあぢさゐトナッタ、從來之レニ紫陽花ノ漢名ガ充テ、アルガ紫陽花ハ元ト支那ノ有名ナ詩人ノ白樂天ガ始メテ或ル山花ニ與ヘタ名デ其レガ果シテ此あぢさゐダカ何ンダカ判然タル證據ハナイ其レ故小野蘭山モ疾クニ之レヲ否定シテ居ル次第ダガ然シ蘭山ノ言フ樣ニ之レヲ秘傳花鏡ノ八仙花ニ充ツルモ亦考ヘモンダ、此ンナ花木ハ木蘭、連翹、瑞香ナドノ樣ニ大抵支那カラ來タモノガ多イガ獨リ此あぢさゐハ何ンダカ唐臭イ姿ハシテ居ルモノ、私ハ此レハ原ト我日本デ出生シタモノデハナイカトノ疑ヒヲ有ッテ居ル、シーボルドガ種名トシテ用キタあぢさゐ即チ Hydrangea Azisai ハがくさう一名がくあぢさゐノ事デ普通ニ云フあぢさゐデハナイ、シーボルドハあぢさゐノ和名ヲ私ニ變更シテ我ガ閨デ目じりヲ下ゲタ女郎ノお瀧(源氏名ハ其扇その儘)ノ名ヲ之レニ用キテ大ニ其花ノ神聖ヲ瀆シタ、脂ギッタ醜イ淫賣婦ト艷麗ナ無垢ノあぢさゐ、此清淨ナ花ハ長ヘニ糞汁ニ汚サレテシマッタ、アヽ可哀想ナ我があぢさゐヨ

（あぢさゐのくきの名となるお龍さん閨に咲く花明るみに出づ　結綱子）

シーボルド名其（ソノキ）扇（源氏）瀧お本楠妾ノ

即チ SIEBOLD ガ初度ノ長崎在留中愛妾楠本お瀧ト云フ婦人ガアリ SIEBOLD ハ常ニ彼女ヲオタクサ OTAKSA ト呼ンデヰタ（三百四十八頁）又「先生は日本を去りて後多年、一意日本植物蒐集材料に關する著作と整頓とに盡したるが、その間出版されたる著書「日本」にもソノギ（其扇）とし又オタクサン（御瀧さん）として二度肖像ヲ掲ゲ「日本植物誌」に於ては紫陽花（アヂサヰ）と Hydrangea Otaksa の名を附したりなどせるは彼が日本の風物動植を憶ふにつれて別けて楠本氏にその心を引付けられて絶えず思ひ慕ひ居りしならん」（四百四十七頁）トアル

然ラバ SIEBOLD ハ Hydrangea Otaksa ノ種名ノ由來ヲ楠本お瀧ニ獻ズル意ヲ附記シテ置カナカッタノデモアロウガ、私ハ推察スルニ嘗テ大正七年九月二十日出版本誌第二卷第一號ニ於テ牧野富太郎氏ガ書カレテ居ル通リ SIEBOLD ハ世人ガ思フ程ナ植物分類ノ大學者デハナク Flora Japonica ハ唯 SIEBOLD ガ其材料ヲ我日本ニ蒐メテ之ヲ歐洲ニ廻シ其命名記載ノ植物學的ノ仕事ハ專ラ共同著者トナッテヰル ZUCCARINI ガ彼ノ土ニ於テ濟シタニ過ギナイカラ（ソレハ丁度明治大正ニ於ケル FAURIE ノ樣ナモノダ）Hydrangea Otaksa ノ場合ニ於テハ SIEBOLD ハ命名材料供給者ノ立場カラハ Otaksa ハ Nomen Japon ト言ッテ居ナケレバナラナカッタノデハナカッタロウカ、或ハ ZUCCARINI ノ獨斷デ Otaksa ノ意義ガ解決出來ヌ所カラ Nomen Japon トシテ片付ケテシマッタノデハアルマイカ、本誌第二卷第一號ノ口繪あぢさゐノ牧野氏說明文ニアル通リ「是レハ多分命名

おたくさ Otaksa トハ果シテシーボルド來朝時代ニ於テあぢさゐニ對スル和名ナリシカ

者ガ何カノ間違違ヲシタモノデハナイカト思フ」

兎ニモ角ニモ當時ノ先進文明國人 PHILIPP FRANZ VON SIEBOLD ハ或ハ黄色人種ノ日本婦人ヲ愛人ニシタコトガ社交ニ於ケル大イナル Handicap ニナルノデ自己ノ榮譽ニ對シテ此一事ニ就テハ口ヲ噤マナケレバナラナカッタノデハナカッタノデアロウカ、否カ

ソレダノニ WILSON ハ Japanese scholars fail to understand ナンテ馬鹿ナコトヲ放言(ヌカ)シタモノダ日本ノ分類學者如何ニ賢明ナリト雖モシーボルドノ夜伽ノ名マデ知ロウ筈ハナイ、コンナコトニナルトスルト後日ノ爲メW氏ガ東洋旅行中携帶シタ夫人ノ戸籍謄本デモトッテオカネバナルマイジャナイカ

○まほがにー樹トハドンナモノ歟

久内清孝

Mahogany ト云フ名詞ハ英語讀本デお馴じみノ語デアルガ日本人ニハ居ナガラ其正體ヲ會得スルコトハ困難デアルト思フカラ以下聊カまほがにーヲ紹介スル、但シ實物ヲ見ズニスル紹介デアルコトヲ斷ッテ置ク ●まほがにートシテ世ニ知レテ居ル木ハ通常二種デアッテ何レモ中央亞米利加ヲ中心トシ其南北ニ自生シ他ニハ絶對ニ天然生ナキ種類デせんだん科 Meliaceae ニ屬シテ居テ學名ヲ Swietenia Mahagon JACQ. (S. Mahagoni L.) ト云フモノト S. macrophylla KING. ト云フモノトアルガ前者ガ正眞正銘ナまほがにーデアル ●屬名 Swietenia ハ千七百六十年ニ JACQUIN ノ始テ命名シタモノデ當時ノ獨逸國ノ女帝 MARIA THERESA ノ侍醫 GERARD VAN SWIETEN ノ名ニ因ンダモノデ種名 Mahogon ガ土語デ英語ノ Mahogany ハ其轉化デアル ●まほがにー樹ハ能ク成長スル時ニハ高サ八十乃至百呎ニモ達シ樹幹ハ直徑四乃至六呎ヲ示ス就中樹ノ基部ハ非常ニ肥大シ八月ノ候白色又ハ淡紫色ノ小花ヲ開キ十、十一月頃ニ至リ暗褐色ノ蒴果ヲ著ク其長サ三乃至六吋幅員一乃至